



2017年2月28日発行



今回の紙面から（ページと内容）

1. 会長挨拶
2. 第10回国際春季フォーラムのご案内
第35回大会のご案内
3. 大会優秀発表賞審査結果報告
(Student) Workshopの企画募集
終身会員の登録申請について
理事会・評議員会より
4. 編集委員会より
5. 大会運営委員会より
広報委員会より
6. 学会賞委員会より
日本英語学会2016年度収支中間報告書
7. 日本英語学会賞と日本英語学会新人賞の募集
事務局より

会長挨拶

会長 大庭 幸男

新しい年を迎え、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本学会の中心活動の一つである大会関係についてご報告申し上げます。まず、第9回国際春季フォーラムが4月23日-24日に神戸市外国語大学で開催されました。また、第34回大会が11月12日-13日に金沢大学で開催されました。お陰様で、どちらの大会も成功裏に終えることができました。運営を支えてくださった開催校代表者の山口治彦先生（第9回国際春季フォーラム）、中村芳久先生（第34回大会）をはじめ、開催校委員ならびに大会運営委員の皆様にご多大のお世話になりました。心より御礼申し上げます。

ところで、本年3月末日で会長としての任期（2013年4月から2017年3月まで）が終了いたし

ます。お陰様で、4年間の任務を大過なく務めることができました。これも偏に会員・委員・役員の皆様の暖かいご支援とご協力の賜物であると深く感謝しております。心より御礼申し上げます。

ここで、任期中の主な事柄について、簡単に記させていただきたく存じます。一部はすでにニューズレターで報告しています。重複する部分がありますが、ご了承願います。

まず第1は研究倫理についてです。これまでこれに関する規定がありませんでしたが、2014年3月に「研究活動における不正行為防止等に係るガイドライン」とそれに関連する諸規定を策定し、ガイドラインについてはホームページで公開しました。これによって研究活動における不正行為を防止・抑止することができると思います。また、不幸にしてそのような事態が生じても速やかに対応できるようになりました。

第2は本学会のホームページについてです。このオリジナル版は河上誓作元会長時代に作成されたもので、表紙の図柄も機能も古くなっていました。今回、表紙、フレームワーク、コンテンツ等の見直しを行い、2015年5月に爽やかで見やすいホームページに刷新いたしました。また、これまで長い間切望されていた英語版ホームページも完備いたしました。

第3は顕彰制度についてです。会員減少の対策として、国際春季フォーラムと年次大会において優秀な研究発表を行った若手研究者を顕彰するために、大会優秀発表賞を2015年6月に設置いたしました。2015年度の実賞は残念ながらありませんでしたが、2016年度は2名の発表論文が佳作となりました。この賞を設けたことによって、若手研究者の会員数が更に増加することを願っています。

第4は韓国英語学会（ELSOK）との交流についてです。稲田俊明前会長時代に同学会と交流協定が締結され、毎年相互に2名を派遣することになりました。しかし、2015年度から、諸般の事情

により、毎年の講師派遣を隔年の講師派遣に変更することにし、2015年10月に新たに協定を締結しました。2016年度は相互に講師派遣を行う年度に当たりましたので、第9回国際春季フォーラムには、ELSOKから講師1名を招聘いたしました。また、ELSOKの大会にも本学会の会員の方1名を派遣いたしました。

第5はEL関係についてです。これまで巻末に添付されていたCD-ROMを2015年12月発行のELから撤廃し、その代わりにELそのものをホームページ上で会員向けのみ公開することにしました。その理由は、科学研究費助成事業の方針が「学術定期刊行物」から「国際情報発信強化」へと変更になったことに関連しています。

第6は終身会員規定についてです。34年前に本学会が創設された時、会則・会員規定等が整備され、終身会員という用語が使用されていました。しかし、その規定はこれまで策定されていませんでした。そこで、この度、終身会員規定とそれに関連する内規等を策定し、2016年6月開催の理事会で承認されました。現在、ホームページに掲載しております。詳細はそちらをご覧ください。

第7は海外の学会との交流についてです。本学会の運営は科学研究費に依存するところが大きく、科学研究費を獲得するには、海外への情報発信や海外の学会との交流・提携等を活発に行っていることが必要となります。ELSOKとの相互派遣が2年に1回ということになりましたので、更なる海外学会との交流を模索していました。幸いなことに、ISLE (The International Society for the Linguistics of English) と相互に協力することになり、2016年11月の理事会で承認されました。早速、本年4月開催の第10回国際春季フォーラムには、同学会の前会長であるOlga Fischer先生にご講演をいただくことになっています。このような海外学会との交流により、本学会が国際化に向けて更に飛躍できることが期待されます。

これ以外に、「会則・会員規定」「情報管理規定」「会長選考規則」等を改定しました。また、「会計規定」「理事会・評議員会規定」「顧問推薦のガイドライン」「科学研究費による物品調達に関する規定」等を新たに策定いたしました。

このように様々なことを行いましたが、これも関係者の皆様のご協力とご支援のお陰でございます。改めまして皆様に心より感謝申し上げます。

最後に、昨年11月に行われた会長選挙において、伊藤たかね先生（東京大学）が次期会長に選出されました。それに伴い、本年4月から新事務局体制による学会運営が行われます。引き続き、新会長および新事務局にご支援とご協力をお願い申し上げます。

第10回国際春季フォーラムのご案内

第10回国際春季フォーラムは次のとおり開催されます。

日時：2017年4月22日(土)・23日(日)

場所：明治学院大学白金キャンパス

(〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37)

詳細については、同封のプログラムをご覧ください。なお、今回のフォーラムも書籍展示を行う予定です。また、土曜日夕刻に開催される懇親会の参加費は2,000円です。

第35回大会のご案内

第35回大会は次のとおり開催される予定です。

日時：2017年11月18日(土)・19日(日)

場所：東北大学

(〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号)

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応募締切は**2017年4月1日(土) 24時(必着)**です。応募の際は、学会ホームページ「研究発表応募規定」欄 (<http://elsj.jp/meeting-kitei/>) 掲載の同規定をご確認下さい。「大会優秀発表賞」への応募は修士課程在籍者及び、修士課程修了後10年未満の方が対象となりますので、奮ってご応募下さい。なお応募規定違反の原稿が見受けられますので、規定の内容をよく読み、遵守して下さいますようお願いいたします。そのうえで、必ず同規定指定のアドレス宛に、発表内容と研究発表応募用紙(Excelファイル)を締切り日厳守にてご送信下さい。

第35回大会においても「親と子の部屋」を設置

いたします。詳細は、今後学会ホームページや8月発行予定のニューズレターでご案内いたします。

大会優秀発表賞審査結果報告

既にお知らせしましたように、第33回大会より優秀な若手の研究発表者を顕彰する制度として、大会（国際春季フォーラム）優秀発表賞が創設されました。第34回大会でも、応募資格があり優秀発表賞の審査を希望する応募者を対象に、査読段階の点数による一次審査と、大会当日の発表に対する二次審査が行われました。審査結果は12月に開催された大会運営委員会で審議され、三上傑氏（東北大学）「素性継承システムのパラメータ化と英語史における統語システムの段階的変化」に大会優秀発表賞（佳作）を授与することが決まりました。

三上氏の発表は、英語史におけるV2現象及びV-to-T移動の段階的な消失を、Miyagawa (2010)の理論における焦点卓越型から主語卓越型へのパラメータ値の変化によって説明しようとする意欲的な研究です。分析内容の説得力と妥当性、参考文献の適切で網羅的な引用、他言語の研究などへの今後の発展の可能性が高く評価され、受賞に値すると判断されました。今後は聴衆とのアイコンタクトや質疑応答の方法等の発表技術が磨かれれば、更にレベルの高い発表になると期待されます。

国際春季フォーラムについても第9回国際春季フォーラムから優秀発表賞の審査が行われています。4月開催の第10回国際春季フォーラムの審査結果は6月後半に学会ホームページ上で公表される予定です。

(Student) Workshopの企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマに関する発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ／スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第35回大会では、11月18日(土)の午前9時30分から11時45分までをワークショップ／スチューデント・ワークショップにあてる予定です。

企画・運営をご希望の方は、学会ホームページ「秋季大会ワークショップ」欄(<http://elsj.jp/workshop/>)掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、**2017年3月31日(金) 24時までに必着にて**、同案内指定のアドレス宛に企画書とワークショップ応募用紙(Excelファイル)を送信して下さい。

終身会員の登録申請について

すでに前号の『え〜ごがく』でお知らせしていますように、2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けます。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、JELS、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。また、すでに現在までに上記の資格を満たしている会員がおられることをふまえ、当面の経過措置として、満56歳から12年以上の会費を納めている場合には終身会員費を減額または免除します。終身会員に関する規定等については、学会ホームページ上にある新着情報、またはトップページの「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。なお、登録申し込みは、4月1日から4月25日の間に受け付けます。

理事会・評議員会より

◇ 会計

2016年11月11日に開催されました第73回理事会と第34回評議員会において、日本英語学会2016年度収支中間報告が承認されました。「日本英語学会2016年度収支中間報告書」は、6ページに掲載されておりますので、ご覧下さい。

◇ 役員の異動（含、会長選挙結果報告）

・会長選挙結果

11月11日に次期会長選挙の開票作業が選挙管理委員の長谷川信子氏と丸田忠雄氏の立ち会いのもと

と行われました。その結果、伊藤たかね氏（東京大学）が次期会長に選出されました。任期は2017年4月1日から2019年3月31日までです。

・大会運営委員長（退任）

小川芳樹氏（東北大学）が2016年12月14日付けで退任されました。

・大会運営委員長（新任）

本間伸輔氏（新潟大学）が2016年12月15日付けで大会運営委員長に就任されました。任期は1年間です。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1,347名（2月7日現在）となりました。内訳は、学生会員45名、通常会員1,159名、維持会員108名、海外会員10名、顧問8名、賛助会員17団体となっております。

◇ 海外学会との交流について

理事会では、海外の他の学会との研究交流を進める目的で、ヨーロッパに拠点を置く ISLE (The International Society for the Linguistics of English) との間に、相互の大会への参加などの交流関係を結ぶこととなりました。これを記念し、第10回国際春季フォーラムに、ISLE前会長のOlga Fischer氏（アムステルダム大学）をゲストスピーカーとしてお招きします。会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第33巻2号刊行の遅れのお詫び

例年12月に刊行している*English Linguistics* 2号ですが、諸般の事情により編集作業に時間がかかっているため、第33巻2号の刊行が大幅に遅れています。現在、新年度の初めの刊行を目指して鋭意努力しています。刊行をお待ちいただいている会員の皆様には多大なご迷惑をお掛けしていますが、何卒、ご容赦、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお*EL*第33巻2号にはArticle 7編、Brief Article 1編、Notes and Discussion 1編、Review Article 1編、Review 7編が掲載される予定です。

◇ *English Linguistics* 刊行スケジュールの変更について

既に前号までのニューズレターでもお知らせしていますが、*English Linguistics*は34巻（2017年度発行予定）から刊行日程が変更されます。現在、1号が6月に、2号が12月に刊行されていますが、34巻以降は、1号が9月、2号が3月の刊行となります。

なお、一般論文の投稿締め切りは4月1日と9月20日で変更ありません。

◇ *English Linguistics* 第34巻1号の応募論文の査読結果について

2016年9月20日締切で*EL*第34巻1号に投稿された一般論文の総数は10編で、その投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 5編 (Syntax 3, Pragmatics 1, Cognitive Linguistics 1)、Brief Article 3編 (Syntax 3)、N&D 2編 (Syntax 1, Semantics 1) でした。

以下の表は、懲慥によるReview 14編と33巻2号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定され、34巻1号に再投稿された論文2編も含めた、34巻1号の審査結果です。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	5	0	4	0	1
BA	3	0	1	0	2
N&D	2	1	1	0	0
Review	14	0	0	1	13
RA	0	0	0	0	0
4ヶ月書き直し					
AR	3	1	2	0	0
合計	27	2	8	1	16

なお、*EL*第34巻1号には、特別企画招聘論文4編も掲載予定です。

◇ *English Linguistics* 第34巻2号への投稿について

2018年3月発行予定の*EL*第34巻2号(冬号)の原稿締切は、2017年4月1日(土) 24時(必着)です。

応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定及び書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成して英語母語話者によるチェックを受けた原稿をご投稿下さいませよう、お願い申し上げます。

◇ 2016年度 *EL*論文賞について

*EL*論文賞について、2016年度は2015年9月20日締切の*EL*第33巻1号(2016年6月刊行済み)と2016年4月1日締切の*EL*第33巻2号に投稿され、すでに採用となったAR 9編、BA 2編合わせて11編について、先ず、分野別1次審査を行いました。審査対象となった論文の分野は、Phonology/Historical Linguistics 1編、Syntax/Historical Linguistics 1編、Syntax 9編です。1次審査結果を踏まえ、*EL*論文賞候補論文を4編に絞り込み、現在「最終選考委員会」で、最終選考中です。最終選考で決定された2016年度「*EL*論文賞」は、2017年3月中に受賞者にお知らせします。受賞論文の執筆者は、*EL*投稿時の年齢(あるいは研究歴)に即して、2017年度の日本英語学会賞(論文)と日本英語学会新人賞への応募の有資格者となります。

◇ preprintの公開について

*English Linguistics*への投稿原稿(preprint)を個人のホームページ等に掲載することに関してガイドラインが定められています。詳しい内容については、学会ホームページをご覧ください。

大会運営委員会より

◇ 大会運営委員会の構成

昨年12月より大会運営委員会の構成は次のようになりました。

(委員長) 本間伸輔氏

(副委員長) 鈴木 亨氏

(委員) 柴崎礼士郎氏(国際春季フォーラム実行委員長)、中尾千鶴氏、堀田優子氏、吉田悦子氏、島田雅晴氏(国際春季フォーラム実行副委員長)、都築雅子氏、秦かおり氏、村上まどか氏[以上留任] 窪田悠介氏、中村太一氏、成田広樹氏、松岡幹就氏、米山聖子氏[以上新任]

◇ 第35回大会シンポジウム企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は『え〜がく』67号でお知らせいたします。

◇ *JELS* 34について

JELS 34はCD-ROM化して今回のNLに同封しております。

◇ 第34回大会の報告

第34回大会は、2016年11月12日(土)・13日(日)の両日、金沢大学にて開催されました。本大会では、公開特別シンポジウム1件、シンポジウム5件、研究発表39件、ワークショップ2件、スチューデント・ワークショップ2件が行われました。大会2日間で397名の参加者があり、盛会裡に終えることができました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では23社の展示がありました。大会運営を支えて下さった開催校の先生方、参加された会員諸氏のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきました。誠にありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

広報委員会より

◇ *EL*バックナンバーのオープンアクセス化について

広報委員会では、J-STAGE 3(科学技術情報発信・流通総合システム)での*EL*オープンアクセス化に取り組んでいます。平成29年1月末日現在、*EL*第30巻1号(2013)まで公開されており、発行後2年を経た巻号について今後も同様に作業を進めていく予定です。以下のURLをご参照ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

◇ *EL*最新刊PDF版の会員向け公開について

昨年2月より*English Linguistics Online* の名称で*EL*最新刊のPDF公開を始めています。今年も、第33巻2号が刊行されたのち、*EL* 第33巻1号・2号の掲載論文をアップロードする予定です。以下のURLをご参照下さい。なお、*EL Online* のPDFへのアクセスには、印刷版*EL*の毎巻2号の裏表紙内側に印刷されるIDとパスワードが必要となります。

<http://elsj.jp/english-linguistics-eng/english-linguistics-online/>

学会賞委員会より

◇ 2016年度学会賞選考結果報告

日本英語学会賞は、学会賞（著書）、学会賞（論文）、新人賞の3部門で応募・審査を行っています。今年度の選考は、2016年度学会賞委員会（長谷川信子委員長、高橋英光副委員長、菊地朗第17期編集委員会委員長、西岡宣明第17期編集委員会副委員長、梅原大輔事務局長）のもとに実施されました。2016年4月1日から5月31日の応募期間内に、学会賞（著書）には著書2編、新人賞には2015年度*EL*論文賞受賞論文1編が応募されました。学会賞（論文）には応募がありませんでした。

学会賞（著書）については6月上旬から10月下旬まで審査が行われ、新人賞については6月上旬から8月末まで審査が行われました。その結果、2016年度学会賞（著書）は、田中秀毅氏（摂南大学准教授）の『英語と日本語における数量表現と関係節の解釈に関する記述的・理論的研究』（2015、開拓社）に、2016年度新人賞は、戸澤隆広氏（北見工業大学准教授）の“On Labeling in Free Relative Clauses in English”（2015, *EL* 32.1）に授与することになりました。選考結果は2016年11月13日（土）に開催された日本英語学会第34回大会の総会において報告され、そこで授賞式が行われました。なお、選考委員を務めていただいた方々の氏名は*EL*第34巻1号に掲載される学会賞委員会報告に記載され公表されます。

受賞作の概要と評価は以下の通りです。

学会賞（著書）受賞著書

田中氏の著書は、記述的にも理論的にも考察が限られてきた英語と日本語の数量詞構文と関係節の意味的特性を扱い、先行研究からの知見の積み上げを遙かに超える大量の新たなデータを発掘し、より妥当で体系的な三分類の提示により言語事実の詳細な分析がなされている点が特に高く評価されました。その記述的な価値と切り口の獨創性は特筆に値し、関連する現象を含めた理論的研究への応用・貢献が大いに期待でき、本学会の学会賞にふさわしいと判断されました。

新人賞受賞論文

戸澤氏の論文は、自由関係節と譲歩文に共通する*wh-ever*の表現の特性を、ミニマリスト・プログラムにおけるlabelingのメカニズムから捉える分析を提案し、その着眼点の獨創性、理論的考察の着実さが高く評価されました。論旨構成、仮説の丁寧な例証、提案した分析で生じうる問題点についての真摯な討議など、論文としての完成度も高く、新人賞を授与するにふさわしいとの結論を得ました。

日本英語学会賞と日本英語学会 新人賞の募集

2017年度の日本英語学会賞（著書）、日本英語学会賞（論文）、日本英語学会新人賞の応募方法と応募期間は以下のとおりです。

- ・ **応募方法**：必要な書類を日本英語学会ホームページよりダウンロードし、必要事項を記入のうえ下記の指定メールアドレスに送信して下さい。

日本英語学会賞（著書）：

award-b-obo@kaitakusha.co.jp

日本英語学会賞（論文）および日本英語学会新人賞：award-a-obo@kaitakusha.co.jp

- ・ **応募期間**：2017年4月1日より5月31日まで
- ・ **その他**：日本英語学会のホームページにありません応募規定を熟読のうえご応募下さい。不明の点は事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）に電子メールにてご連絡下さい。

事務局より

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意下さい。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

2017年度に学生会員として登録（2016年度からの継続）を希望される方は、以下の要領でお申し出下さい。申告期間の終了後に2017年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意下さい。特に年度末の2月・3月に学生会員として新入会された場合も、新年度には改めて申告をしていただくようお願いします。

- ・ 申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員

- ①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。
②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院
修了者、および外国の大学の日本校の学生。

- ・ 申告期間：2017年4月1日～4月25日（必着）
- ・ 申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の（1）から（4）のいずれかの書類を添付し、事務局宛（宛先は奥付参照）に「学生会員登録希望」と必ず朱書きのうえ、郵送して下さい。

- (1) 在学する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知書のコピー
- (4) (元)指導教員（所属明記）の署名（捺印）と証明の言葉

専任の勤務先を持たない大学院修了者は、(4)の方法により書類を提出して下さい。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご連絡下さい。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、上記の学生会員登録と同じ要領で申し込むことにより、申告期間にかかわらず、いつでも初年度から学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意下さい。

詳しくは、学会ホームページをご確認下さい。

◇ EL, JELSへの論文投稿に関するお願い

EL, JELSに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「JELS投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

ELに関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名および

メール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文のEL掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記して下さい。

JELSや所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用下さい。

◇ EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせ下さい。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」にELに掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせ下さい。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意ください。

◇ JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局まで（elsj-info@kaitakusha.co.jp）お申し出下さい。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

◇ EL公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていたきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するとこ

ろがありますので、よろしくお願いいたします。

編集後記

◇ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力下さい。

◇ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡下さい。連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。

金沢大学での第34回大会には、400名近い皆さまに参加いただきありがとうございました。爽やかな秋の金沢を楽しんでいただけたのではないかと思います。また開催校の先生方には臨時バスや宿泊場所の手配も含め、多大なご尽力をいただき、本当にお世話になりました。今年の第35回大会は1998年以来、2度目の東北大学での開催です。仙台で皆さまにお目にかかれることを楽しみにしています。

今年で10回目を迎える春季フォーラムは明治学院大学で開催されます。新たに研究交流を進めていくISLEの前会長Olga Fischer氏による講演の他、2件の講演、国内外からの約30件の研究発表とポスターセッションが予定されています。こちらにも多数のご参加をお待ちしています。

さて、事務局を引き継いで、早いもので2年が過ぎようとしています。ただただ慌ただしく追いつてられるような日々でしたが、何とか業務を終えることができそうです。新年度からは伊藤たかね次期会長のもと、新事務局に業務を引き継ぐことになりました。2年間英語学会を支えてくださった皆さまに、事務局を代表して心よりお礼申し上げます。(D.U.)

2017年2月28日発行

編集・発行	日本英語学会
代表者	大庭 幸男
発行所	日本英語学会
	http://elsj.jp/

〒113-0023

東京都文京区向丘1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900
